

診療所だより

新型コロナウイルス感染症

マニラ日本人会付属診療所 菊地 宏久

世界中で新型コロナウイルス感染症患者数が増加の一途をたどっています。この原稿を記載している 2020 年 8 月後半におけるフィリピンでの日々の感染者数は 3 千人～5 千人/日、死亡者は 50 人～100 人/日、8 月 31 日時点での総数は感染者数 22 万人余り、死者数 3500 人余りと報告されています。また世界中ではこれまでに 2500 万人以上の感染者数が報告され、86 万人以上の方が亡くなっています。フィリピンでは厳しい防疫措置ロックダウンが 3 月中旬から施行されていますが、患者数減少の兆しはまだ見えていません。

新型コロナウイルス感染症の影響下で私たちの生活は大きく変わりました。生活行動・環境に強い制限が強いられ、これまで当たり前と思っていた以前の生活を送ることが非常に困難となっています。しかしフィリピン国民の多くはその困難に耐え、一日も早い新型コロナウイルス感染症の終息を毎日願っています。

一方で残念ながら世界のいたるところで、貧富の差や社会的立場による医療応需の差が顕著になっていることが伝えられています。重症で入院加療が必要な患者さんでも貧困が原因で病院への入院が難しかったり、逆に裕福な患者さんは優先的に希望の病院での加療を受けられるシステムや差別が社会に存在しています。

感染症により制約・制限された社会の中で、“隣人や他者への思いやりが消えていく”、“私たちが戦う敵はウイルスだけではない”と或る感染症学者が述べています。

国境を越える感染症は、一部の国や地域だけを感染予防しても結局、究極的な終息には至りません。新型コロナウイルス感染症の場合も、各国や地域に応じた地球全体での感染予防対策が取られなければ根本的解決には至りません。

有効な薬や安全なワクチンが開発され、一日も早くそれらの使用が実行可能となり、貧富の差に関わらず、適切に配分、使用され、世界中の人々が健康で安心できる生活を送れる日が早く来ることを願ってやみません。

最後に、世界中で新型コロナウイルス感染症に罹患し苦しんでおられる患者さんの一日も早い回復と、亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたします。